



和泊町立 和泊中学校

生徒数 130 人
学級数 8 クラス



《テーマ》

自他を敬愛し、思いやりと優しさに溢れる生徒を育成する

研究に当たって（テーマ設定の理由）

本校のグランドデザインの中心に「人権尊重の精神に基づいた教育」を位置付け、全ての教育活動を行っている。子どもたちは、仲良く過ごしているが、長年の人間関係の中で慣れが生じ、相手を傷つける発言でトラブルになることがある。

このような実態から、子どもたちが自他の人権を尊重し、職員が子どもたちへの向き合い方を更に向上させるため、人権教育に関する資質と指導力の向上を目指して、本テーマを設定した。

研究の実際

4月3日	職員研修(研究の方向性の確認)
4月11日	全校道徳(いじめ問題を考える)
9月9日	職員研修(構成的グループエンカウンター)
9月17日	全校道徳(いじめ問題を考える)
10月7日	人権教室(子どもの権利)・職員研修(生徒との向き合い方、育てたい資質・能力)
12月4日	人権教室及び職員研修(性的指向・性自認、障害者)
2月20日	道徳授業(各担任による人権に関する授業) 保護者向け人権講話(生徒が学習した内容と感想等、家庭での人権教育)

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 子どもの権利条約を学ぶ人権教室及び職員研修

県教育庁人権同和教育課指導主事が講師となり、学年ごとに子どもの権利条約について学んだ。事前に各担任と学年の実態や課題を共有したことで、より自分事として学ぶことができた。また、職員も子どもの権利を踏まえた教育活動について研修を深めた。

□ 二つの人権課題を学んだ人権教室

県教育庁人権同和教育課指導主事が講師となり、全校で二つの人権課題（障害者の人権、性的指向・性自認）について学んだ。これまでの学習を踏まえ、自分で考えたり、意見を交流したりした。また、別日にハンセン病患者の人権、北朝鮮当局による拉致問題等について全校生徒で動画視聴を行う授業につなげた。

□ 学年ごとの課題に即した人権に関する授業

過去2回の訪問を受けて、本校の職員が各学年、学級の実態に応じて人権に関する授業を行い、県教育庁人権同和教育課指導主事に参観及び助言をいただいた。「人権の授業は難しい」、「間違っことを教えてしまうのではないか」という不安を払拭し、自身の学びを授業実践につなげることができ、教職員の自信につながった。



【外部講師による人権教室】



【各担任による人権教室】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの姿、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 「子どもの権利条約」の内容を学年ごとに学習し、自他の人権を尊重することについて考え合うことができた。相手を傷つける発言が少しずつ減ってきている。
- 県教育庁人権同和教育課と連携し、生徒指導部会や職員研修において、子どもとの向き合い方についての研修を行うことができた。また、個々の人権問題についても研修を深めることができた。
- 県教育庁人権同和教育課と連携することで、教職員が自信をもって授業を進めることができた。教職員に事前アンケートをとり課題意識を共有したり、生徒の実態を伝え指導内容に反映させたりしたことが、具体的な実践につながっていった。
- 生徒の学びを保護者と共有することで、人権教育推進の方向性を確認することができた。